

児童の教室復帰と社会的自立につながる教室づくり

不登校児童の状況

対象児童は、校内別室への登校ができており、毎日無理のないように学習を進め、受けることが可能な授業に参加することができている。週1回、SCとの面談を行い、特別支援教室にも通室している。本人に合った学習環境を見付けるために、ケースによっては固定学級での体験を勧めている。

具体的な取組

○校内体制

校内別室指導支援員が特別支援教育支援員等と連携を図り、当該児童に対応を行った。また、担任が休み時間や空き時間に、当該児童の様子を見に行くようにした。支援員がいない場合は、空き時間の教員が校内別室支援の対応を行った。

○個別対応の充実

学習は当該児童の無理のない範囲で促し、学習レベルにあったプリントを用意した。参加できそうな授業（教室や特別教室）には、支援員が付き添うようにした。また、教室での授業に参加できないときは、オンラインでの参加も可能な環境を整えるようにした。

○校内別室指導

不登校傾向にある当該児童は、悩みや不安を抱えており、支援員がしっかり寄り添って当該児童の話を聴くようにした。休み時間はなるべく外で遊ぶように促した。支援員は当該児童と信頼関係を構築するよう常に心がけた。

○デジタル機器の活用（オンライン授業）

一人1台端末のタブレットを活用し、当該児童がオンラインで授業を受けることができるようにした。画面を見て、教員の説明を聴き、波縫いの練習をすることができた。また、国語・算数等に参加するときは、黒板をノートに写したり、発表したりすることもできた。



成果

校内別室が不登校傾向にある当該児童の居場所になり、当該児童は安心して学校に登校できるようになった。また、当該児童の習熟度や状況に合わせた学習対応ができるようになった。

課題

人との接し方についての基本的なルールづくりが必要である（学習のルールは作成済み）。合わせて、当該児童のコミュニケーション能力の向上を図る手だてや学習環境を整備する策を検討していく。また、支援員の人材確保を進めていく。